２０１２ 年 ２ 月

年間活動報告書

2011 年版

外国為替市場発展のために

東 京 外 国 為 替 市 場 委 員 会

（Tokyo Foreign Exchange Market Committee）

2012 年 2 月 28 日撮影

目　次

３　　巻頭のことば(星野議長)

5　　小委員会報告

16　東京外国為替市場委員会委員名簿(2012 年 2 月 28 日)

巻頭のことば

東京外国為替市場委員会･星野議長

2012 年 2 月

本日は、市場委員会の年次総会に際して、日本銀行の皆様には日頃から市場委員会の活動をサポート頂いている上に、私どものためにこのような懇親会を開催頂き誠にありがとうございます。たくさんの諸先輩がいらっしゃる中、甚だ恐縮でございますが、ご指名頂きましたので、御礼に加えてご挨拶を申し上げます。

為替市場における昨年から今年にかけての一番大きなテーマは、ゴールの見えない規制強化への対応だと思っております。各国の対応方針が未だ不透明かつまちまちで、対象プロダクト、導入時期等も相応のばらつきが見込まれております。我々の活動としては、東京証券取引所・日本証券クリアリング機構との共同勉強会の開催、各行･各社が有している国内外の情報共有、金融庁担当者を招いての意見交換、海外の市場委員会との情報交換等を適宜行いながら、過度な規制の導入や一部の市場参加者の規制対応の遅れによって円滑な市場機能が損なわれないよう、鋭意準備をしているところであります。

こうした中、市場委員会活動で各委員の負担が増えているのは事実であります。一方で、委員は各行・各社で業務を任されている方々であり、当然こちらが疎かになってはなりません。昨年は震災がございましたが、欧米勢の苦戦もあり、日本の相対的なポジションは上がっているということを日々の業務で実感しております。こうしたチャンスを活かさねばなりません。

委員会活動と本業は一見両立しないようにも見えます。儲からないことで何をしているのかという批判もあるかもしれません。しかし、これらはどちらも同じある目的に繋がっております。それは東京市場の発展であります。

委員会活動は、安定した、公平で、公正なビジネス環境を提供するためのフィールド整備のようなものです。過剰な規制を防ぐためにも、自分たちの力で整備できるところは自分たちでやる、これが当委員会のレゾンデートルでもあります。東京ならば安心してビジネスができると内外の市場参加者に思ってもらわなければなりません。

一方でそのフィールドの上で戦う我々はそれぞれが一流を目指さなければならないと思います。人、テクノロジーが集まるところに更にリソースが集まるのがこ

の世界です。我々が強くなれば、海外からも優秀な人材が集まる。それを求めて内外の企業も集まるでしょう。

フィールドが無ければ我々は戦えない、フィールドがあってもプレイヤーが三流では駄目。両方があってこそだと思います。これからも委員会活動と日々の業務の両立に努力して参ります。引き続き変わらぬご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

ご清聴ありがとうございました。

以 上

小委員会報告

運営小委員会

I. 委員会概要

○ 運営小委員会は、東京外国為替市場委員会（以下「本委員会」）の円滑な運営のために、以下の実務的な機能・役割を担っている。

1. 委員の選任・退任に関わる事項
2. 役員の改選に関わる事項
3. 本委員会において議論・検討すべき事項の確認、意見交換等
4. その他、本委員会の運営に関する事項

II. 活動報告

○ 2011 年度は、「本委員会において議論・検討すべき事項」として、主に以下の項目について意見交換等を行った。

1. 各小委員会の活動報告及び情報の共有化について
2. 各国市場委員会との協力、情報交換について
   海外の市場委員会事務局との電話会議（四半期毎に開催）に参加（竹内書記）
   グローバル FX 委員会会議（オタワで開催）に参加（竹内書記）
3. 各国為替市場の動向について
   為替取引の CCP 化および取引情報蓄積機関（TR）に関る議論・情報を共有
   年末年始の為替マーケット開始時刻に関する対応について議論および方針を共有
4. 市場委員会の会計監査について
   平成 23 年会計年度について運営小委員会にて会計監査を実施

III. 今後の課題

○ 為替取引に係わる金融規制についての議論および対応策の検討

○ Code of Conduct（オレンジブック）リバイズ案の検討

○ BIS サーベイ（2013 年実施予定）の詳細決定に向けた東京外為市場委員会の意見集約および対応策の検討

○ 引き続き、各国市場委員会との情報交換や委員会内での情報共有化の推進

以　上

広報小委員会

I. 委員会概要

○ 広報小委員会は、東京外国為替市場委員会(以下本委員会)の活動を為替マーケットの参加者のみならず、社会に向けて発信することを目的として活動している。主な情報発信手段として本委員会のホームページに以下のような情報を掲載し、必要に応じ掲載内容を更新している。

1. 邦文および英文の「委員会議事録」
2. 新委員公募のお知らせやセミナー開催など委員会活動に関する情報発信
3. 緊急時の市場参加者への情報発信
4. 「Code of Conduct」
5. 本委員会のメンバー、組織図
6. 当委員会作成の公表文書

また、ウェブサイトの運用に関しては、サーバーの見直しやレイアウトの変更など利用者の利便性を重視しつつ、低コストの運用を心がけている。

II. 活動報告

○ 2011 年度は、以下の点を重点的に実施。

1. 「東京外国為替市場における取引高サーベイの結果」の掲載
   2011 年 4 月中の外国為替取引を対象とした第 6 回の取引高サーベイの調査結果を作成し、ホームページへ掲載した。
2. 「当委員会が対円 NDF に係る取引慣行を推奨することについてご意見・情報の募集の案内」の掲載
   パブリックコメント募集のため対円 NDF のフィキシング・レートの算出方法の標準化についての推奨案をホームページへ掲載した。

III. 今後の課題

○ 引き続き当委員会の情報発信･収集のニーズを理解し、適切かつ低コストのホームページの運営を行う。

以　上

教育小委員会

I. 委員会概要

○ 教育小委員会は、セミナー等の実施を通して、東京外国為替市場に関わる人材の育成や新しい知識の普及に努める役割を担っている。

II. 活動報告

○ 2011 年は、日本フォレックス・クラブとの共催で、以下の二度のフォレックス・セミナーを実施した。

1. 実施時期　2011 年 2 月 21 日　　18：30－20：30
実施場所　野村證券大会議室　アーバンネット大手町ビル 20 階
内容
第一部　「勝負師として」
講師　清宮　克幸　氏
前サントリーサンゴリアス　監督
現ヤマハジュビロ　監督
第二部　「世界同時不況の可能性と為替相場
講師　榊原　英資　氏
青山学院大学教授

2. 実施時期　2011 年 8 月 29 日　　18：30－20：30
実施場所　野村證券大会議室　アーバンネット大手町ビル 20 階
内容
第一部　「グローバル･マクロと外国為替戦略“予測の裏側”」
講師　田中　泰輔　氏
野村證券　株式会社
マネージング・ディレクター
グローバル・マクロ・リサーチ・オフィサー
第二部　「為替見通し：下期の狙いどころ」
講師　山本　雅文　氏
バークレイズ銀行
チーフ FX ストラテジスト

III. 今後の課題

○ 現状の外国為替市場のニーズにあった形でのセミナー開催を続けることにより、人材の育成と市場の活性化を支援していく。

以　上

法律問題小委員会

I. 委員会概要

○ 法律問題小委員会は、東京外国為替市場委員会（以下「本委員会」）の目的遂行のため、以下の役割を担う。

1. 外国為替市場その他国際金融市場における取引に関する慣行や行動規範の法律的な諸問題について、議論および意見交換を行う。
2. 上記 1.について、具体的には、以下の活動を行う。

① 本委員会から調査依頼のあった事項について、小委員会として法的な観点から検討し、見解をとりまとめ、フィードバックを行う。

② 何らかの実務上の問題を想定し、例えば取引の安全性を確保するという観点で、法的な立場から検討し、本委員会に対してベストプラクティス等を提言する。

③ 外国為替市場の取引に関し、本小委員会としての対応が必要となる場合に備えて、研究が必要と考えられるテーマについて、情報収集を行う。

II. 活動報告

○ 対円 NDF 取引のフィキシング・レート算出方法の標準化提案について
2011 年は、上記 I 委員会概要 1.ならびに 2.の①、②の活動の一環として、先に対円 NDF 取引慣行整備小委員会がとりまとめた対円 NDF 取引のフィキシング・レートの算出方法の標準化提案について、当委員会としての公表方法・手順等について検討し、本委員会宛てに以下を上申し、合わせて関連する手続きを実施した。

- 本件が、取引形態の定型化が未だ十分に進展していない中で委員会として推奨案の提案を行うことに鑑み、パブリックコメントに準じた手続きを踏むことにより、広く市場参加者から意見を募り、これを反映した推奨案とすることが望ましいとの結論を上申。
- 上記 1 の方針が本委員会で承認されたことを受け、当該パブリックコメント案を策定し、本委員会承認を経て HP に公開。
- パブリックコメント実施に関する情報公知のため、対円 NDF 取引慣行整備小委員会と協働し、投資信託協会、日本証券投資顧問業協会ならびに日本フォレックス・クラブに対して会員宛て情宣に関する協力を依頼。

○　アジア市場の休日集中時の公式取引時間について

同委員会で議論となった、2011/12/26 や 2012/1/2 のようにアジア市場の休日集中によって市場流動性が極端に低下した状況では、市場価格のマニュピレーションに対する懸念があるため、こうしたリスクが高まる取引時間帯を他の取引時間帯と同様に取り扱うことが、果たして公共の利益に適っているかどうかが議論された。これに関連した基本情報確認のため、市場委窓口として ISDA 宛てに照会を実施。

III.　今後の課題

○　以下のテーマについての議論・研究・検討を中心に活動を行う。

- 先に実施したパブリックコメント『当委員会が対円 NDF に係る下記の取引慣行を推奨することについてご意見・情報の募集のご案内』に関するフォローアップ
- 『アジア市場の休日集中時の公式取引時間について』、本委員会の議論に合わせた検討
- 取引情報蓄積機関に関する議論も含めた、為替取引に関する新しい規制の動向に関する他の小委員会との協働

以　上

市場調査小委員会

I. 委員会概要

○ 市場調査小委員会は、東京外国為替委員会による「東京外国為替市場における外国為替取引高サーベイ（以下、東京市場サーベイ）」を定期的に実施し、海外主要市場の市場サーベイとの情報共有化を行うとともに、その内容について考察を行い、市場委員会の活動に結び付けていく。また、金融環境や市場の質・量の変化に対して、適宜調査活動を行う。

II. 活動報告

○ 2011 年度は、主に以下の活動を行った。

- 2011 年 4 月に「東京市場サーベイ」を行い、同年 7 月公表。
- 昨今出来高が拡大している店頭外為証拠金取引に関わるカバー取引に関する実態調査を実施。
- 「東京市場サーベイ」の以下の見直しを実施。
  - ① 調査内容の見直し
  - ② 年 1 回の調査頻度を来年度より年 2 回へ変更
  - ③ 現行の報告金融機関（2011 年度 20 金融機関）の拡大

III. 今後の課題

○ 「東京サーベイ」の調査内容の更なる見直しについて、必要性の有無を検討する。

○ 東京外為市場の現状分析と活性化について、取り纏めを実施する。

○ 2013 年度に実施される「BIS サーベイ」に関わる見直し案についてフィージビリティーのチェックを実施する。

以　上

Code of Conduct 小委員会

I. 委員会概要

○ Code of Conduct 小委員会は、東京外国為替市場の円滑な運営のために以下の実務的な機能・役割を担っている。

1. 主にインターバンク取引における取引慣行遵守状況のモニタリング
2. 為替市場の変化への対応の指針作り
3. 新たに取り組むべき課題の認識

II. 活動報告

○ 2011 年は、以下の通り活動を行った。

1. 本委員会のホームページ上でリリースしている「CODE OF CONDUCT 外国為替･資金取引に関わる行動規範（2008 年版）」のメンテナンス（2011 年は変更事項なし）
2. E コマース小委員会と協働の上、電子取引のマーケットへの影響調査に参加
3. 4 年に一度の Code of Conduct 見直しに着手

III. 今後の課題

○ 海外の市場委員会とのより緊密な情報交換を通じ、Code of Conduct のアップデートを行う。

○ 他市場と項目・平仄を標準化し、比較が容易なわかりやすい Code of Conduct を作成する。

以　上

オペレーション小委員会

I. 委員会概要

○ オペレーション小委員会は、本邦外国為替市場・資金市場（除く国内円）における決済業務に付随する事項を取り扱い、決済業務が円滑に行われるよう案件の検討を行い、東京外国為替市場委員会への提言を行う。

II. 活動報告

○ 金融商品取引法一部改正による金利スワップ及びCDSのCCP利用義務化を受け、（株）東京証券取引所並びに（株）日本証券クリアリング機構と外為デリバティブ取引のポストトレード処理に関する共同勉強会を計4回実施。欧米の動向や本邦金利スワップ及びCDSのCCPについて制度概要・検討内容を確認し、意見交換を行った。尚、各勉強会の議題は以下の通り。

第1回　2011年1月12日

・OTC取引の清算について

第2回　2011年3月3日

・国際的並びに諸外国及び本邦における店頭デリバティブ取引に係る規制動向

・諸外国における外国為替デリバティブ取引の清算に関する検討状況

・本邦における店頭デリバティブ取引の清算に関する検討状況

第3回　2011年6月15日

・外国為替店頭デリバティブ取引に係る規制動向 / 海外のインフラ機関に関する動向

・Singapore Exchange Derivatives Clearingにおける NDF取引に関する清算制度概要

第4回　2011年9月13日

・JSCCにおける円金利スワップ取引の清算制度試案について

・外為デリバティブ市場の活性化に向けて

・Thomson Reuters Trade Confirmationの機能について

III. 今後の課題

○ 将来の外為デリバティブ取引のCCP適用拡大を想定し、意見交換や課題の洗い出しを行っていく予定。

以　上

BCP 小委員会

I. 委員会概要

○ BCP 小委員会は、被災後の東京外国為替市場の機能維持と早期の機能回復を支援し、取引の混乱を市場全体として最小限に抑制するための市場レベルの「業務継続計画」を策定・運営する役割を担う。

II. 活動報告

○ 2011 年度は、以下の活動を行った。

1. 東日本大震災後対応

震災後の外為市場 BCP 対応を時系列で振り返り改善点を抽出。以下の対応を実施した。

① 市場参加者（金融機関・ブロカー）の BCP 態勢確認

② 夏季大規模停電発生時には BCP Web への状況登録を事前依頼

③ BCP Web 使用不可状態を想定、連絡網を委員会メンバーへ配布

2. 3 市場合同訓練の準備

① シナリオ・スケジュール等に関する短期金融市場・証券市場との事前調整、連携体制の確認

② 被災状況レベルフェーズを短期金融市場と同様とするよう変更

③ BCP 訓練参加者への訓練案内・BCP Web 登録 ID の事前整備

3. 3 市場合同訓練の実施（2011 年 1 月 26 日）

① 三回目となる 3 市場合同訓練は、日銀ネットの停止という強いストレス想定での BCP Web 連絡訓練を実施

② 東日本大震災等を踏まえ、日銀ネット情報については、日銀からのダイレクト発信等を試行。全体進行はほぼスケジュール通りに進むも、項目毎には次回へ向けた課題が見受けられ、今後フィードバックを通して改善を図っていく。

参加者（含む、客員・当局）　33 社　156 名

（前回訓練　30 社　123 名）

III. 今後の課題

○ 東日本大震災及び合同訓練結果を踏まえた課題への対応

○ 外為市場 BCP 事業参加者拡大に伴う対応

以　上

E・コマース小委員会

I. 委員会概要

○ E・コマース小委員会は、為替取引の電子化が進行する中、主に以下の項目につき議論・考察を行う役割を担う

1. 為替取引電子化の現状把握

   インターバンク取引及び顧客取引の電子化の状況

   FX 取引(外為証拠金取引)動向の把握

2. 取引の電子化が外国為替市場に与える影響

   市場流動性、ボラティリティ、潜在リスク

   取引環境、行動規範

II. 活動報告

○ 2011 年の活動は以下の通り。

1. 小委員会を開催(2011/5/11)、以下議題につき打合せを実施。

   ① 『3/17 未明に記録した円相場の急騰に起因する外為証拠金の未収金発生に関して』(金融先物取引業協会 調査部 松井部長よりご説明)

   ② 『3/17 にドル円が 76.25 円の底値をつけた時間帯の EBS の取引状況概要』(ICAP 大木氏よりご説明)

2. 日本銀行より本委員会(2011/6/23) にて以下分析資料のご説明。

   ① 『最近における外国為替証拠金取引の動向』

   ③ 『円急騰：3 月 17 日(木)に何が起こったのか』

3. 金融先物取引業協会調査部と以下打合せ実施（10 月）

   ① 『店頭外為証拠金取引に関する専門用語の取り纏めとインターバンク市場に於ける専門用語の比較・相互理解を深めて行く。』

III. 今後の課題

○ アルゴリズムトレードなど、電子取引の拡大による、市場流動性、ボラティリティへの影響や、リスクの所在を調査・把握。

○ FX 取引動向の把握（システムメンテナンス後のロスカットオーダー等）と東京外為市場に与える影響考察。

○ Code of Conduct 小委員会との協働、情報共有。

以　上

NDF 慣行整備小委員会

I. 委員会概要

○ NDF 慣行整備小委員会は、東京市場活性化の観点から、現行取引慣行が明確でない対円 NDF のフィキシング・レートの算出方法の標準化について、調査・検討を行い、市場慣行を推奨し一定の市場慣行の整備に貢献する事を目的として活動した。

具体的には、対円 NDF のフィキシング・レートの算出方法を市場慣行の自然発生的な収束に先んじて推奨するに当たり、本委員会綱要に照らし広くパブリックコメントを募集した。報告時点において、寄せられたコメント（7 通）により、最終的な推奨案を変更する必要があるか検討中。

II. 活動報告

○ 本委員会での審議、法律問題小委員会との協議を踏まえ、小委員会の活動を行った。

第 1 回　対円 NDF の Fixing レート算出に用いる USDJPY レートの検討
第 2 回　同、最終案の検討
5/24　本委員会にて推奨する取引慣行案の協議
第 3 回　再度、最終案の検討
6/23　再度本委員会にて推奨する取引慣行案の協議
7/6　法律問題小委員会にて法的観点から留意すべき事項を協議
11/29　本委員会にてパブリックコメントの最終案を承認
12/5～1/31　本委員会 HP、投信協会、投資顧問協会、受託信託銀行を通じてパブリックコメントの周知徹底を行う

III. 今後の課題

○ 当初の目的である「対円 NDF のフィキシング・レートの算出方法の取引慣行の推奨」は最終段階。今後は市場での取引状況を定期的にモニターし、必要に応じ推奨内容の変更を検討して行く事としたい。

以　上

東京外国為替市場委員会委員等名簿（2012 年 2 月 28 日）

＜委員＞

委員	役職	所属
星野　昭	議長	三菱東京 UFJ 銀行
梨本　忠彦	副議長	バークレイズ銀行
中野　北斗	副議長	みずほコーポレート銀行
竹内　淳	書記	日本銀行
塚田　常雅	委員	三菱 UFJ 信託銀行
好川　弘一	委員	クレディ・スイス証券
石川　昌信	委員	トウキョウフォレックス上田ハーロー
福島　亮一	委員	みずほ銀行
髙木　晴久	委員	三井住友銀行
北倉　克憲	委員	中央三井信託銀行
宗川　雄視	委員	トムソン・ロイター・マーケッツ
岩田　智宏	委員	ゴールドマン・サックス証券
大木　一寛	委員	EBS ディーリングリソーシスジャパン
今西　晋嗣	委員	住友信託銀行
大西　知生	委員	ドイツ証券
廣田　泰司	委員	JP モルガン・チェース銀行
前波　弘	委員	野村證券

＜準委員＞

伊藤　祐介	準委員	マネーブローカーズアソシエイション
井出　穣治	準委員	日本銀行
筒井　慎一	準委員	みずほコーポレート銀行
森　　直樹	準委員	三菱東京 UFJ 銀行

＜オブザーバー＞

木原　大策	オブザーバー	財務省

（注）敬称略（順不同）

＜小委員会名簿＞

常設小委員会	委員		所属
運営小委員会	委員長	塚田　常雅	三菱 UFJ 信託銀行
	副委員長	梨本　忠彦	バークレイズ銀行
		星野　昭	三菱東京 UFJ 銀行
		中野　北斗	みずほコーポレート銀行
		髙木　晴久	三井住友銀行
		竹内　淳	日本銀行
		好川　弘一	クレディ・スイス証券
		伊藤　祐介	マネーブローカーズアソシエイション
		井出　穣治	日本銀行
		筒井　慎一	みずほコーポレート銀行
		森　　直樹	三菱東京 UFJ 銀行
		水柿　洋之	三菱 UFJ 信託銀行
広報小委員会	委員長	大木　一寛	EBS ディーリングリソーシスジャパン
	副委員長	竹内　淳	日本銀行
教育小委員会	委員長	好川　弘一	クレディ・スイス証券
	副委員長	石川　昌信	トウキョウフォレックス上田ハーロー
		宗川　雄視	トムソン・ロイター・マーケッツ
		北倉　克憲	中央三井信託銀行
		廣田　泰司	JP モルガン・チェース銀行
		前波　弘	野村證券
法律問題小委員会	委員長	今西　晋嗣	住友信託銀行
	副委員長	塚田　常雅	三菱 UFJ 信託銀行
		梨本　忠彦	バークレイズ銀行
		松原　道彦	三菱 UFJ 信託銀行
		山本　竜太郎	みずほコーポレート銀行
		大嵜　博明	三井住友銀行
		原田　和博	三菱東京 UFJ 銀行
市場調査小委員会	委員長	中野　北斗	みずほコーポレート銀行
	副委員長	星野　昭	三菱東京 UFJ 銀行
		髙木　晴久	三井住友銀行
		筒井　慎一	みずほコーポレート銀行
		大西　知生	ドイツ証券
		森　　直樹	三菱東京 UFJ 銀行

常設小委員会	委員		所属
Code of Conduct 小委員会	委員長	好川　弘一	クレディ・スイス証券
	副委員長	筒井　慎一	みずほコーポレート銀行
		前波　弘	野村證券
		今西　晋嗣	住友信託銀行
		森　　直樹	三菱東京 UFJ 銀行
		伊藤　祐介	マネーブローカーズアソシエイション
		福島　亮一	みずほ銀行
		（竹内　淳）	（日本銀行）
		（水柿　洋之）	（三菱 UFJ 信託銀行）
オペレーション 小委員会	委員長	福島　亮一	みずほ銀行
	副委員長	今西　晋嗣	住友信託銀行
		高橋　尚	住友信託銀行
		石川　昌信	トウキョウフォレックス上田ハーロー
		大木　一寛	EBS ディーリングリソーシスジャパン
		北倉　克憲	中央三井信託銀行
		池田　浩	中央三井信託銀行
		宗川　雄視	トムソン・ロイター・マーケッツ
		好川　弘一	クレディ・スイス証券
		平井　修史	みずほコーポレート銀行
		森　　直樹	三菱東京 UFJ 銀行
		徳島　倫子	三菱東京 UFJ 銀行
		黒住　靖	三井住友銀行
		坂入　秀輝	三井住友銀行
		土屋　潔	CLS
		水柿　洋之	三菱 UFJ 信託銀行
		松原　道彦	三菱 UFJ 信託銀行
		加世田　貴久	みずほ銀行
		（足立　祐一）	（日本銀行）

常設小委員会	委員		所属
BCP 小委員会	委員長	星野　昭	三菱東京 UFJ 銀行
	副委員長	兼平　修一	みずほコーポレート銀行
	副委員長	竹内　淳	日本銀行
		梨本　忠彦	バークレイズ銀行
		塚田　常雅	三菱 UFJ 信託銀行
		福島　亮一	みずほ銀行
		髙木　晴久	三井住友銀行
		篠永　健	三井住友銀行
		信森　毅博	日本銀行
		足立　祐一	日本銀行
		大西　知生	ドイツ証券
		原田　和博	三菱東京 UFJ 銀行
E・コマース小委員会	委員長	髙木　晴久	三井住友銀行
	副委員長	梨本　忠彦	バークレイズ銀行
		竹内　淳	日本銀行
		有我　建彦	みずほコーポレート銀行
		小泉　隆博	三菱東京 UFJ 銀行
		廣田　泰司	JP モルガン・チェース銀行
		綿林　寛資	三井住友銀行
		松井　哲夫	金融先物取引業協会
プロジェクト小委員会	委員		所属
NDF 慣行整備 小委員会	委員長	廣田　泰司	JP モルガン・チェース銀行
		大木　一寛	EBS ディーリングリソーシスジャパン
		石橋　優	三井住友銀行
		大西　知生	ドイツ証券
		加辺　猛	みずほコーポレート銀行
		石川　昌信	トウキョウフォレックス上田ハーロー
		梨本　忠彦	バークレイズ銀行
		塚田　常雅	三菱 UFJ 信託銀行
		佐々木　秀明	三菱 UFJ 信託銀行
		宗川　雄視	トムソン・ロイター・マーケッツ
		本間　仁	トムソン・ロイター・マーケッツ
		平井　邦行	三菱東京 UFJ 銀行

（注）敬称略（順不同）